

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち
教育の小径 No.112

2018 February

2月号



国士舘大学教授
北 俊夫先生



今月のことば

こえつ ぶねふ
呉越同舟

● 敵対する者同士や仲の悪い者同士が、同じ場所に居合わせたり、共通の課題や困難に共に協力して立ち向かったりすることをいいます。呉と越の両国は長い間戦い、互いに憎み合っていました。

授業の記録をとろう

- 研究授業の場では、できるだけ克明な授業の記録をとりましょう。記録をとると、子どもと教師による授業の姿をより深く捉えることができるようになります。
- 授業者自身が、授業後に記録を読んだり、ビデオを視聴したりして授業を振り返ると、指導上の課題や授業改善のポイントがみえてきます。

記録すると授業がみえてくる

最近、研究授業の場で観察者が授業の記録をとることが少なくなったように思います。時折、学習指導案を丸め腕組みしながら、授業の成り行きをただ見ているだけの姿に接することもあり、気になるところです。

授業研究の本来の姿は、授業の事実にもとづいて授業を分析・検討することです。授業記録をとることには、協議会の場で授業の事実にもとづいて発言するための情報を収集するという重要な意義があります。単なる印象的な批評や思いつきの発言をしないようにするためです。授業記録を丹念にとることは、科学的な方法で実践研究を進めるためにも不可欠な基礎資料を収集することだと言えます。また、記録をもとに協議を深めることは、授業者に対する礼儀でもあります。

授業は子どもと教師の主として言語による共同作業ですから、記録する主な対象は教師の発問や指示と子どもの発言です。子どもの活動状況や教師の板書事項を記録することもあります。

授業記録をとっていると、授業のさまざまな姿がみえてきます。それは教師の発問に子どもたちがどのように応えているかということだけではありま

せん。応答している内容を記録しながら、発問や指示の善し悪しがわかります。子どもたちの関心とズレた発問の場合には、子どもの発言が途切れがちです。発言の内容も気になります。

一方、記録することが追いつかなくなるほど、多くの子どもたちが活発にしかも長文で発言してくる場合があります。このようにときには、発問の内容が効果的だったことがわかります。前の子どもの発言につなげたりつなぎ言葉を使ったりする子どもがいると、授業者が日ごろから子どもたちの発言力を鍛えていることに気づきます。

授業観察者は授業記録を丹念にとることによって、授業の姿を捉えることができるようになります。観察しているだけでは気づかないこともみえてきます。授業記録をとり、それをもとに授業研究を進めることによって、授業力を向上させることができます。

授業の振り返りに生かす

授業者自身が授業後に授業記録を文字に起こすこともできます。これには大変な労力がいらいます。テープに録音された45分間の授業をすべて文字に再生するには、授業の形態にもよりますが、6～8時間はかかります。

記録された授業の事実にもとづいて

授業を分析すると、指導のあり方や教師の役割が明確になってきます。指導はテクニックだけではありません。授業は教師の子ども理解そのものです。授業に教師の授業観や児童観が反映されていることにも気づきます。

教師の多忙化が指摘されるなかで、毎日の授業の様子を文字で克明に記録することは現実的ではありません。そのような時間の余裕もありません。

1つの工夫として、授業をビデオ撮影し、後で再生して授業を振り返る方法があります。自分の授業を視聴することには恥ずかしさが伴いますが、自らの話し方やその内容にどのような傾向や問題点があるかがわかります。同じことを何度も繰り返していたり、最初に話したことがそのうちに違ってしまったりしていることがあります。ポイントをついた子どもの発言を取り上げなかったり、発言する子どもが偏っていたりすることにも気づきます。

授業記録をとったりビデオを撮影したりして自らの授業を振り返ると、多くの場合、自らの授業の不十分さに気づき、授業のどこをどのように改善したらよいか、みえてきます。

授業観察者も授業者もできるだけ綿密な授業記録をとり、事実にもとづいて分析します。授業記録は授業力向上のための優れた「教材」です。

今月の記念日

歌舞伎の日
(2月20日)

1607年(慶長12年)のこの日に、歌舞伎踊りが徳川家康など大勢の大名の前で初めて披露されました。場所は江戸城でした。歌舞伎はこれからも残したい伝統・文化の一つです。

教科書が終わらない

学期末や学年末になっても予定されている教科書の内容が終わらないことがあります。このようなことが起こらないようにするためにはどうしたらよいのでしょうか

各学校では、教科ごとに年間指導計画を作成していますが、子どもたちが予期に反してつまずいたり、教師が丁寧な扱ったりすると、計画していた時数をオーバーしてしまうことがあります。その結果、学期末や学年末になっても予定されている内容が終わらないこととなります。こうしたことは多くの教師が経験していることでしょう。

近年、アクティブ・ラーニングや問題解決的な学習、体験的な学習など、時間のかかる指導方法を取り入れることが求められています。子どもたちの主体的な学びや協働的な学びを重視すると、予定していた以上に授業時数がかかることがあります。年間の授業時数は決められていますから、ある程度の制限をかける必要があります。

問題解決的な学習を展開する単元、作業的・体験的な学習を中心に進める単元、他教科等と横断的、関連的な指導を重視する単元、ドリル学習を取り入れる単元など学習活動にメリハリをつけ、時間に軽重をつけることが考えられます。時間の軽重とは、内容や教材を精選し重点化することでもあります。軽く扱う場合にも目標を実現させることは最低限の要件です。

教科書の内容を未履修のまま、進学したり進級したりすることは決して望ましくありません。先を見て、計画的に指導することが何より重要です。

教育の動向

生徒指導上の課題に関する調査

平成28年度における「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」の結果が文部科学省から公表されています。ここでは、小学校の結果の概要を紹介します。

暴力行為の発生件数は22,847件です。前年度は17,078件でしたから、大幅に増加しています。ここでいう暴力行為とは、対教師暴力、生徒間暴力、器物破壊を指しています。加害児童数は19,754人で、前年度は15,088人でした。加害児童数のうち、学校が何らかの措置をとった児童は109人、関係機関が措置を

とったのは219人でした。

いじめの認知件数は237,921件でした。前年度は151,692件でしたから、これも大幅に増加しています。いじめの発見のきっかけはアンケート調査の実施によるものが最も多く、次いで本人からの訴えや学級担任による発見などがあげられています。

長期欠席者数は67,798人で、前年度は63,091人でした。このうち、不登校児童数は31,151人です。前年度の27,583人から3,500人以上も増加しています。在籍者数に占める割合は0.5%です。ちなみに中学校は3.0%でした。

調査の結果から、子どもの生徒指導上の課題はいまなお深刻な状況にあることが明らかになりました。

シリーズ 新学習指導要領のキョウブツト解説 その4

主体的・対話的で深い学び

学習指導要領の改訂過程ではアクティブ・ラーニングと言われ、「主体的で協働的に学ぶ学習」と用語解説されました。その後、アクティブ・ラーニングには「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点があるとされ、「主体的・対話的で深い学び」と表現されるようになりました。新学習指導要領には「アクティブ・ラーニング」の用語はみられません。

アクティブ・ラーニングという用語は、授業改革の起爆剤として学校現場に一定のインパクトを与えました。しかし、どうしても「アクティブ」に目が向き、「ラーニング(学習)」として成立させることが疎かになりがちだったようです。用語が変わったことには「活動あって、学びなし」にならない

ようにとの警鐘もあるようです。

「主体的な学び」とは、子ども一人一人が問題意識をもって取り組む問題解決的な学習をさらに充実させることです。「対話的な学び」とは、単に1対1の関係による学び合いにとどまらず、協働的な学び合い、すなわちさまざまな人たちと関わり合いながら学習を深めていくことです。「主体的な学び」と「対話的な学び」によって、深まりのある学びが実現します。

「深い学び」を実現させるためには、学習の終末においてこれまでの学習を振り返り、子どもに学習の変容や成果を実感させます。教師は思考の変容や理解の深化を一人一人に即して見届けます。

このような学びを実現させるためには、単元や題材を対象に、より大きな内容や時間のまとまりを視野に入れた指導計画の作成が求められます。

INFORMATION

2018年度新教材



1~6年

よく考え、よく話し合うための『道徳ノート』

全ての教科書に使える道徳ノート

- 自分の考えをもつ
- さまざまな考え方や感じ方を知る
- 自分の生き方について考える

教師用指導書

道徳の指導と評価について詳しく解説
評価の記述例・「道徳ノート」を使用した授業実践例を掲載

編集後記

これから新学習指導要領に対応した教材が各教材会社から続々と発刊されるでしょう。時代の変化に合わせた適切な教材を作る!現場に立つ先生を応援したい!という使命感をもって努めたいものです。(K記)

企画・編集: ぶんげい教育研究所
発行: 株式会社文溪堂
発行日: 2018年2月1日